

Title	吐魯番出土文物研究会会報 第27号 : 特集・古城址一覽(Ⅱ)
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会会報. 27 p.1-p.4
Issue Date	1989-12-15
oaire:version	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78837
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

吐魯番出土文物研究会会報

1989年12月15日
吐魯番出土文物研究会

第27号

特集・古城址一覧(Ⅱ)

新疆維吾爾自治區古代城址一覧表(Ⅱ)

—黄文弼氏の調査報告を中心として—

荒川正晴 編

【南疆——龜茲(クチャ)地域・Ⅱ】

- (7) 鶴計土拉 (a)克子爾莊の西方
(b)周囲約102m、高さ約2m (『考古記』 p. 21)
- (8) 色當沁 (a)Sang-tam?／克子爾莊の西方に二城が並ぶ (①北側 ②南側)
(b)①周囲約210m、土壌(日乾煉瓦?)づくり ②周囲約270m (城壁は崩壊し、痕跡のみ) (『考古記』 p. 21)
(c)漢代遺址、唐代にもなお存在 (『考古記』 p. 21)
- (9) 勒哈米沁 (a)克子爾沁の西南約5 km
(b)周囲約210m、北壁に城門あり (『考古記』 p. 21)
(c)唐代遺址 (『考古記』 p. 22)
- (10) 磚頭城 (a)勒哈米沁の西北約1-1.5km
(b)城壁残存せず (『考古記』 p. 21-2)
(c)唐代遺址 (『考古記』 p. 22)
- (11) 卡勒克沁 (a)Kalmak-shahr?／克子爾沁の東南方
(b)周囲約180m、土壌(日乾煉瓦?)づくり、高さ約6m、北壁に城門あり (『考古記』 p. 22)
(c)唐代遺址 (『考古記』 p. 22)
- (12) 通古斯巴什 (a)Tonguz-bāsh／新和県の西南約40km (卡勒克沁の南東)
(b)周囲825m、土壌(日乾煉瓦?)づくり、高さ約9m、馬面・城門(南北壁)あり(城門の幅約1.3m)¹⁾ (『考古記』 p. 22)
(c)唐代遺址(龜茲大城の一つ)、大暦年間の文書断片出土((10)・(12)・(14)・(15)も含めたこの一帯の遺址の年代は、すべて唐代に属し、通古斯巴什はその政治中心地区となっていた²⁾) (『考古記』 p. 22)
- (13) 不徒瓦什旧城 (a)通古斯巴什の南約5 km
(b)周囲約250m、土壌(日乾煉瓦?)づくり、城壁の基址・高さ約2m、北に城門あり (『考古記』 p. 22)

- (c)唐代遺址、屯兵の駐屯所（『考古記』p. 22）
- (14) 可提尤干城 (a)通古斯巴什の西南方
(b)周囲約130m、高さ約6m、下部は土築・上部は磚築（『考古記』p. 22）
(c)唐代遺址、屯兵の駐屯所（『考古記』p. 22）
- (15) 玉爾滾沁 (a)Yulghun-shahr／通古斯村の北東約10km
(b)〈内城〉周囲約346m
 〈外城〉周囲約1425m、土壌（日乾煉瓦？）づくり（当初は土築）、城壁の基址・高さ約3m（『考古記』pp. 22-3）
- (16) 托卜沁 (a)Tōpa-shahr／沙雅県・英爾默里の北東約1.5km
(b)周囲約168m、城壁の基址・高さ約3m、東北に城門を設置（『考古記』p. 23）
- (17) 羊達克沁³⁾ (a)Yantak／沙雅県の西北約40km、沙雅県・英爾默里巴雜の北方約10km
(b)三重城、〈大外城〉周囲約3351m 〈内城〉周囲約510m、方形、土築〈版築？〉⁴⁾城壁の基址・残高約1m（『考古記』p. 23・『三十年』p. 151）
(c)3世紀中期の旧城⁵⁾（『考古記』p. 23）
- (18) 小羊達克沁 (a)克子爾沁／沙雅県・英爾默里巴雜の西南約5km
(b)周囲135m（『考古記』p. 23）
- (19) 大羊達克沁 (a)小羊達克沁の東約1kmの阿雀墩の西南約5km
(b)周囲約232m、土壌（日乾煉瓦？）づくり、北壁・高さ約1m（『考古記』p. 23）
(c)唐代遺址（『考古記』p. 23）
- (20) 月勒克沁 (a)大羊達克沁の南約10km
(b)周囲約250m、円形、赤土づくり、城壁の基址・高さ約0.7m（『考古記』p. 23）
(c)漢～唐代遺址（『考古記』p. 23）
- (21) 阿克沁 (a)Ak-shahr／沙雅県の北東約27kmの博斯堂巴雜の西南約6km
(b)周囲約123m、方形、土壌（日乾煉瓦？）づくり、高さ約1.3m（『考古記』p. 24）
(c)漢～唐代屯田地域（『考古記』p. 24）
- (22) 托卜沁 (a)Tōpa-shahr／沙雅県の北東約27kmの博斯堂巴雜の西南約10km
(b)周囲約234m、ほぼ円形（『考古記』p. 24）
- (23) 窮沁 (a)Chong-shahr、大城、頃希阿尔／沙雅県の東約45km、庫車県の東南約60km
(b)周囲約924m、ほぼ円形、土築、城壁の基址・高さ約0.6m（『考古記』p. 25-6・『三十年』p. 150）
(c)漢代の屯田校尉の故城址（『考古記』p. 25）

- (24) 羊達克沁 (a)Yantak／沙雅県の北東約30kmの英業の東方
(b)周囲約345m、方形(円形?)、土築、城壁の基址・高さ約2.6m(『考古記』 pp. 25-6)
(c)漢代遺址(『考古記』 p. 26)
- (25) 克子爾沁 (a)Kizil-shahr／沙雅県・英業の西方
(b)周囲約180m、ほぼ円形、土築、城壁の基址・高さ約0.6m(『考古記』 pp. 25-6)
(c)漢代遺址(『考古記』 p. 26)
- (26) 旧城 (a)沙雅県・英業の東南約3.5km、羊達克沁の西南3-3.5km
(b)周囲約276m、長方形、赤土づくり、城壁の基址・高さ約1m(『考古記』 p. 25)
- (27) 阿克沁 (a)Ak-shahr／旧城の東方
(b)周囲約105m、長方形、土壌(日乾煉瓦?)づくり、南に城門あり(『考古記』 pp. 25-6)
(c)漢～唐代屯田地域(『考古記』 p. 26)
- (28) 滿瑪克沁 (a)尚當(Sang-tam?)／沙雅県の東約50kmの沙烏勒克の西約10km
(b)円形、土築(『考古記』 pp. 25-6)
(c)漢代遺址(『考古記』 p. 26)
- (29) 大黒汰沁 (a)Kitai-shahr、漢人城／庫車県城の東南約110km、塔里木郷の東北約15km
(b)周囲882m、長方形、土壌(日乾煉瓦?)づくり、高さ約7-8m・厚さ6-8m、馬面・城門あり(西壁・広さ約8m、甕城あり)(『報告』 pp. 67-71)
(c)古代の戍堡、火災により唐代頃に廃される(『報告』 p. 69)
- (30) 小黒汰沁⁶⁾ (a)Kitai-shahr、漢人城／庫車県城の東南約110km、塔里木郷の西北約9km
(b)周囲約578.5m、ほぼ円形、土築、残存する城壁の基址・高さ約3m(『報告』 p. 70)
(c)大黒汰沁より早期の建城⁷⁾(『報告』 p. 70)
- (31) 于什格提 (a)Öch-kat、三道城／黒汰沁の東北約7.5km
(b)城壁なし(面積周囲約300m)(『考古記』 p. 26)
(c)唐代遺址(『考古記』 p. 26)
- (32) 可可沙旧城 (a)哈格村の南方、可可沙の西北方
(b)周囲約330m、高さ約3m、東に城門あり(『考古記』 pp. 32-3)
(c)唐代の時期にかかるものか(『考古記』 pp. 32-3)
- (33) 沙亦墩・阿占其 (a)石墩／明布拉克荘の東南約500m
(b)周囲約162m、石築(『考古記』 p. 34)
(c)關城より關門にいたる途上に設置された望壘(『考古記』 p. 34)

- (34) 黒太沁爾 (a)Kitai-shahr, 漢人城／克衣巴雜の西北約500m
(b)周囲360m、土築（『考古記』p.34-5）
(c)亀茲左將軍・劉平国建置の關城（『考古記』p.35）
- (35) 克子爾土拉 (a)Kizil-tura／克子爾土拉村莊の北方
(b)周囲約258m（『考古記』p.38）
(c)亀茲小城（『考古記』p.38）
- (36) 柯爾塘 (a)喀拉馬克沁(Karamak-shahr)／哈拉姑洗の東方
(b)周囲約330m、石築（『考古記』p.40）
(c)漢代の姑墨石城、唐代の撥換城旧址（『考古記』p.40）
- (37) 塔什頓城 (a)Tash-dong／沙雅県城の西北約35km
(b)南北69m・東西74m、方形（『三十年』p.151・『詞典』p.303）
(c)亀茲国か安西都護府の属城の一つ（『詞典』p.303）
- (38) 托浦城址 (a)Tōpa-shahr／新和県城の西北約30km
(b)東西227m・南北194m、残高約4-5m・底部の厚さ12-15m
（『三十年』p.150・『詞典』p.302）
(c)亀茲国か安西都護府の属城の一つ（『詞典』p.302）

【注】

- 『詞典』p.302には、周囲約1000mとする。
- 『詞典』p.303は、唐代の安西都護府に属する軍事的要衝地とする。この城址からは、「大暦14年（779）白蘇畢梨領屯米狀」・「大暦15年（780）李明達借糧契」・「（年次未詳）將軍妣閼奴烽子錢殘紙」が出土している（『考古記』p.94-5）
- 武伯綸「新疆天山南路的文物調査」（『文物參考資料』1954年第10期）p.80<『三十年』p.151>には、英格邁利羊達希阿尔古城として東西85m・南北98mという数字を掲げるが、同一の城址かどうかは不詳。
- 黄文弼「略述亀茲都城問題」『文物』1962年第7・8期(p.19)には、城壁の基址が残存し、すべて版築と指摘する。
- 黄文弼、前掲論文(p.19)には、この城址を『晋書』・『魏書』・『周書』・『隋書』に記される亀茲国の都城かと推測する。『詞典』p.303にも、これを北魏代にあたる時期の亀茲国の都城と説明する。この見解については、陳世良、前掲論文、pp.118-9参照。
- 『考古記』（p.25-6）に見える黒太沁と同じ城址と思われるが、そこでは周囲約424mと報告される。
- 『報告』（pp.70-1）には、黒太沁東北方の東西に走る乾渠に沿って点在する一連の遺址<(23)・(25)など>と合わせて、この一帯を漢唐兩代の屯田遺跡と推測している。

（未完）

事務局（連絡先） 〒182 東京都調布市国領町5-19-14
荒川正晴方 TEL 0424(81)4633
吐魯番出土文物研究会 (The Research Society for Turfan Relics)